



日本一高い所での授業
(なるほど高山病のお話)

H21. 8/15, 天気晴

二〇〇九年度「富士山学校」科学講座
 講師：浅野勝己先生
(NPQ富士山測候所を活躍する会、理事長)
(筑波大学名誉教授)

富士山の山頂では、気圧が六割かなり。だから、酸素が血液に入る量も六割すると運動する力が地上の二割減る。高山病は低酸素が原因で起る症状だ。

浅野先生は、高山病の症状を予防する薬の説明や山登りは、生活習慣病をなくするには、日取適なスポーツである事を話してくれた。実は、この時頃は、立岡病にやられていて、頭が痛いし、気持ちが悪く、ヘトヘトだった。ぐったりしてしまっていた。

くわレムは浅野先生からもらったパンフレットを、下界で見るとも勉強になった。

浅野先生は、二十三年前から毎年夏一週間測候所にたどり着いて高山所順応トレーニングの研究をされている。今は、高山病に効くハリシリ等の研究をしているそうだが、明日からはヒマラヤに登る。学生が三日で、高山所トレーニングに来るといって、事になった。

山頂へ七時間たどり着いたけれど、ヘトヘトのぼくはたけがれど、この様なかきな場所ではトレーニングをしたら、地上下界に帰った時、動く事が楽で、ぼくの心臓のタイムも自己ベストが出るかもしれない。

最後に、浅野先生が、ぼくとあく手をしてくれた。にやけた手の力にびっくりした。高山病の頭痛もふきとんでしまった。やさしい笑顔の中に測候所を守ろうとしてくれている強心と、大きなハリシリとした手が印象的だった。ぼくも、家族も、おとろえんをしていきなりと思ひま

